

地区別にみた道路の非交通的利用と機能に関する研究*

A Study on Road Use for Non Traffic Purpose and Street Function in the District†

川本義海** 川上洋司*** 本多義明****

Yoshimi KAWAMOTO, Yoji KAWAKAMI and Yoshiaki HONDA

1. はじめに

道路の基本的な機能として、交通機能はこれまで道路の果たすべき最も重要な機能とされてきたといえる。そのため可能交通容量の拡大や混雑緩和、走行速度の向上や時間距離の短縮といったいわば社会経済的な指標をもとに道路の機能が評価されることがほとんどであった。しかしながら道路を取り巻く社会情勢は上述の観点に加え、道路に対する人々のニーズが多様化する中であって、道路は自動車が走る“場”としてだけでなく、“～通り”といった愛称で親しまれているような地域の人々にとって馴染みのある道路においては、道路自体に魅力を持たせ楽しむことのできる“場”としての機能が今後ますます期待される。

このような道路の持つ機能について、近年では道路整備に関わる各種機関や調査・研究グループにおいて様々な評価・提言がなされている^{例えは1)}。具体的に非交通的な観点から道路を捉えた調査・研究として、道路のアメニティといった概念に基づき、これを構成する基本要素として「安全性」、「円滑性」、「環境性」、「景観性」、「場所性」といった5つを挙げ、これら要素間の包含関係、アメニティ向上のための整備の方向性をハード・ソフト両面から手法論へ展開しているものがみられる²⁾。また二十一

世紀を迎えるにあたって、豊かな時代に求められる道路のあり方を、交通機能を基本とした道路の基本的要素と非交通的機能面におけるアメニティ要素といった両面から考察し、これからの道路づくりにおける重要な示唆を与えているものもみられる³⁾。さらには、地域特性や交通特性に応じた新しい社会にふさわしい豊かさの実感できる道路空間を整備していくための具体的な方策として、道路構造のあり方から二十一世紀に向けた新たな道路づくりについて検討・提言しているものもある⁴⁾。いずれにおいても、これからの道路整備は、従来の“車”主体から“人”主体に転換しつつあり、その根底にはいかに生活の質を高めていくか、そのための道路整備はどうあるべきかに視点を置いている。

以上のことから、本研究では住民にとって最も身近な地区内の道路を主に利用者側の視点から分析・評価し、地区レベルにおける非交通的な道路の機能充実のための基礎資料を提供することを目的とする。ここでは特に地区住民の日常生活に密着した道路の非交通的な使われ方のうち、最も特徴的にその地区の特徴が表れると思われるイベントに着目する。まず福井市内の43地区を対象としてアンケートを実施し、地区内のイベント的な道路の使われ方を分類するとともに、道路に対する意識と実態を把握する。さらに市街化区域、市街化調整区域、都市計画区域外といった地区分けによって、地区レベルにみた場合の道路利用の特徴と問題点を明らかにする。

2. 道路を使ったイベントに関する考察

(1) 道路を使ったイベントとその特徴

道路を使ったイベントには地区内に留まらない非常に大規模なものから、その地区だけで行われる小さなものまで実に様々である。ここではその大小

* キーワード：道路機能，道路計画，空間整備・設計
** 学生会員，工修，福井大学大学院工学研究科
(〒910 福井市文京3-9-1, TEL 0776-27-8763, FAX 0776-27-8746)
*** 正会員，工博，福井大学工学部環境設計工学科
(〒910 福井市文京3-9-1, TEL & FAX 0776-27-8608)
**** 正会員，工博，福井大学工学部環境設計工学科
(〒910 福井市文京3-9-1, TEL & FAX 0776-27-8607)

に関わらず、地区の住民が関わる道路を使った最も身近なイベントについて、福井市内の43地区（公民館区）を対象としてアンケートを実施した。（配布数43、回収数42、回収率98％）

内容は、イベントの内容、イベントはいつ頃から始まったか、会場は当初から変わったか、なぜその場所が使われるようになったか、道路を使う際の問題点・課題、イベントに対する満足度、今後行ってみたいイベント等である。

アンケートの集計にあたって、まず道路を使ったイベントの特徴を捉えるために、表－1に示すように大きく「スポーツ」、「まつり」、「伝統行事」、「文化交流」、「その他」に分類した。

表－1 道路を使ったイベント

分類項目	内 容
スポーツ	マラソン、駅伝、登山、ファミリーウォーク、体育祭 など
まつり	商店街まつり、夏祭り、秋祭り、パレード など
伝統行事	神社祭礼、地区祭礼 など
文化交流	公民館まつり、地区文化祭 など
その他	朝市 など

この分類に従って、各地区で回答のあったイベントを集計した（複数回答）。その内訳は、「まつり」（34.1%）、「スポーツ」（31.8%）、「文化交流」（22.7%）、「伝統行事」（6.8%）、「その他」（4.5%）であり、特に「まつり」、「スポーツ」は回答が多かった。これらはマラソンや御輿等にもみるように、ある一個所に限定して行われているものではなく、まち全体の道路を使って広範囲に催されるイベントであり、道路を使った最も典型的な形態であるといえる。表－2に道路を使ったイベントの一部を示す。

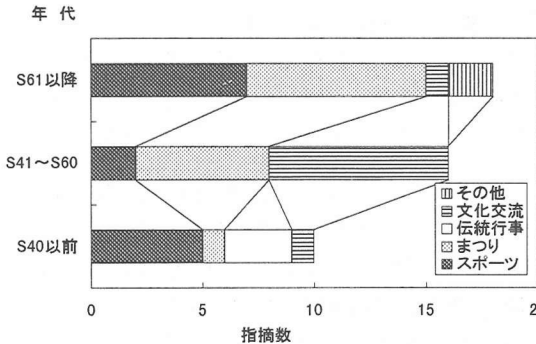
次にイベントが始まった年代についてみると、図－1に示すように近年着実に増加傾向にある。その内訳をみると、伝統行事として分類されるイベントは、昭和41年から昭和60年の間に始まったものが多いことがわかる。一方、「スポーツ」、「まつり」に分類されるイベントは、その多くが昭和61年以降に始まっており、「伝統行事」が始まった年代とは大きく異なっている。このことは、近年各地で盛んになっている町おこし、村おこしの一環として行われているイベントとしてスポーツ、まつりが開催され、そ

の会場として道路が活用されていることを示すものであり、その需要が高まってきていることの表れであるといえる。

またイベントの会場の変更については、「変更なし」が84％となっている。今後行ってみたいイベントについては、やはり「まつり」や「スポーツ」がほとんどである。しかし各地区で共通して挙げられているように、交通面で解決すべき課題（交通規制、駐車場の確保等）を同時に含んでおり、これらは実施の際の問題点として大きなウェイトを占めている。

表－2 道路を使ったイベントの例

イベント名	公民館区	内 容
足羽の歴史の道ファミリーウォーク	足 羽	遺跡を家族と共に回りながら認識を新たに、地域のコミュニケーションを図る。
越前時代行列	順 化	福井春祭りの一環としてのイベント。
ときめきハートランド旭	旭	区民が集い、語らい、地域を考えるお祭り。
青空市	国 見	青年グループが海でとれた魚介類を販売する。
史蹟めぐり	鶺 鴒	一般市民対象のウォーキング。
国見岳潮風マラソン	鷹 巣	国見岳へ通じる二枚田幹線林道を使ったマラソン大会。
コスモスまつり	宮の下	休耕田にコスモスを栽培し、見物客を誘致して農産物や特産物の販売を行う。

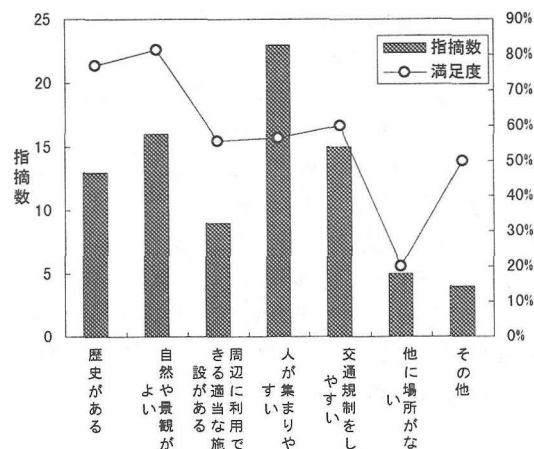


図－1 イベントの始まった年代

(2) イベントに使う道路の選択理由とその満足度

道路を使ってイベントを行う上で、道路を選んだ主な理由とイベントに対する満足度（全回答のうち「満足」としている割合）を選定理由別に集計した結果が図－2である。選定理由で最も多いのは「人が集まりやすい」で、イベントを行う上での最も重要な要素となっている。逆に指摘数が少ないのは「他に場所がない」であることから、やむを得ず道路を利用してイベントを行っている地区は少ないといえ、各地区にはイベントで使うことのできる道路は少なくとも存在しているといえる。

イベントの満足度についてみると、「歴史がある」、「自然や景観がよい」といった理由で道路が選ばれている場合その満足度は高く、最も選定理由の多い人が集まりやすいと道路での満足度はそれほど高くない。



図－2 道路を選んだ主な理由とイベントに対する満足度

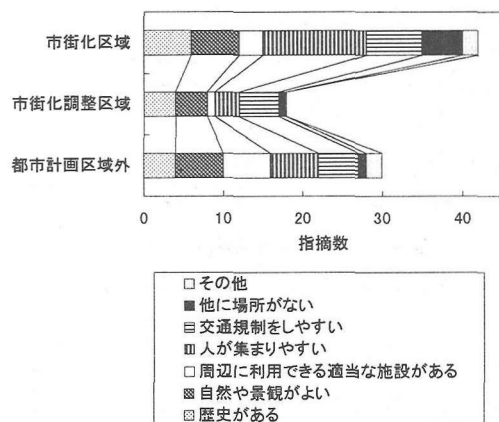
(3) 都市計画における区域分けにみた道路の特徴

ここでは、福井市内の43地区を「市街化区域（19地区）」、「市街化調整区域（15地区）」、「都市計画区域外（9地区）」に分けて考えた場合、この都市計画上の区域分けが地区において道路を使ったイベントに特徴的な変化として表れているか、また問題点に差異はあるかといった分析を行った。

イベント分類別で見ると図－3のように、3区域においてほぼ「まつり」が構成の主体となっているも

の、市街化調整区域と都市計画区域外ではマラソン大会等の「スポーツ」、市街化区域では公民館祭りなどの「文化交流」が相対的に多く、それぞれの区域における道路を使ったイベントの特徴が表れているといえる。イベントに対する満足度でみると、市街化調整区域が最も高く（84.6%）、市街化区域は（45.4%）と都市計画区域内でその差が顕著であった。また道路の選定理由では、市街化区域で特に「人が集まりやすい」を重視しており、他の区域と大きく異なる。

またイベント開催における問題点として、「交通処理問題」、「道路による地区間の交流分断」、「イベント箇所へのアクセスの不備」、「狭幅員によるイベント空間の不足」などが挙げられており、道路を使ったイベントを行う際の自由度を大きく左右しているといえる。



図－3 地域別にみたイベントに利用した道路の選定理由

3. 道路機能の多様性について

道路の持つ非交通的機能を「シンボル」、「憩い潤い」、「道路景観」、「歴史文化」、「活気賑わい」、「地域風土」、「イベント」といった8つに分類し、福井県内10市町村を対象にこれら8つに該当する各市町村の代表的な通りを抽出してその特徴を捉えた既往研究⁵⁾をベースに、ここではそれぞれの機能の多様性を情報理論の分野で用いられるエントロピーの概念を取り入れ、エントロピーモデルを

用いて相対エントロピーとして求めた⁶⁾。

図-4に示すように、地区レベルにおける機能の多様性(相対エントロピー)を、既往の研究における市町村の場合(図-5)とで比較すると、いずれの場合もイベントについてはほぼ同値であることが分かる。これにより、地区で行われる道路を使ったイベントは地区の大小によらず道路の多機能性を考える上で有用な情報を提供し得るということが出来る。

また「歴史文化」の機能としての多様性が最も高く、市町村の場合とは大きく異なる。これは地区レベルにおいて歴史文化の要素となるものが多様に捉えられることの表れであるといえる。

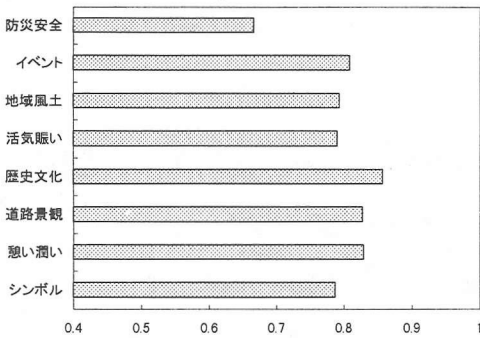


図-4 非交通的機能の多様性
(相対エントロピー 公民館区レベル)

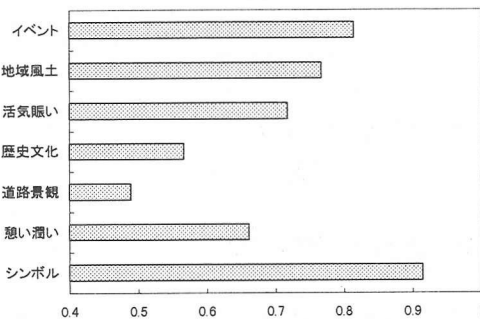


図-5 非交通的機能の多様性
(相対エントロピー 市町村レベル)

4. おわりに

地区レベルにおける非交通的な道路の機能評価を行うために、ここでは特に地区住民の日常生活に

密着した道路の非交通的な使われ方の一つとして特にイベントに着目し分析・考察した。得られた結果は以下に示すとおりである。

- ① 地区において行われる道路を使ったイベントは近年増加しつつあり、その内容はスポーツ、まつりが多くなっている。
- ② 道路を使ったイベントに対する満足度は、自然や景観がよく歴史がある場所であるほど高く、ただ単に人が集まりやすいだけでは不十分である。
- ③ 市街化区域、市街化調整区域、都市計画区域外といった区域分けでみると、イベント時に道路を選定する理由、あるいはイベントに対する満足度には差があり、地区レベルの道路整備計画においても、交通機能と非交通機能とのバランスを十分検討していくことにより、質の高い道路空間を生み出していくことが必要である。
- ④ 道路の非交通面における多機能性を検討・評価する際に、道路を使ったイベントに着目することは、検討対象とする範囲の大小によらず、地区における道路に対する多様なニーズの特性を捉えていく上で有用な着眼点となり得る。

今後は、イベントで利用されている道路の現地調査等を踏まえ、住民の生活に密着した地区レベルのみちづくりに対し、その地区特性にあった具体的整備項目を提示する必要がある。

なお、アンケート調査において、福井市内の公民館の館長をはじめとする地区の方々のご協力を得た。ここに記して感謝する。

【参考文献】

- 1)建設省道路局監修：M I C H I ROADS IN JAPAN 1993, (社)日本道路協会, 112p, 1993.
- 2)トヨタ交通環境委員会：快適で魅力ある道路づくり 道路のアメニティをめざして, トヨタ交通環境レポート, 67p, 1983.
- 3)トヨタ交通環境委員会：豊かな時代の道路, トヨタ交通環境レポート, 48p, 1995.
- 4)建設省道路局監修：新時代の“道の姿”をもとめて 21世紀に向けた新たな道路構造のあり方, 道路広報センター, 215p, 1995.
- 5)川本義海, 川上洋司, 加藤哲男, 本多義明：非交通面に着目した“通り”の機能に関する研究, 都市計画学会学術研究論文集, pp.631-636, 1995.
- 6)国沢清典：エントロピー・モデル, 日科技連出版社, 161p, 1975.